

南アルプス 光岳～上河内岳～聖岳縦走

【日程】2016年8月10日（水）～2016年8月13日（土）

【エリア】南アルプス

【形態】夏季縦走

【メンバー】I田、N嶋、T島、T良

【報告】T良



《ルート／タイム》

8月10日 天理発 19:50 1:00 梨元ていしゃば着 テントで仮眠

8月11日 梨元ていしゃば発 4:30 ～ 5:35 易老渡 5:55 ～面平 7:40 ～
標高 2254.1m 地点 10:50 ～易老岳 11:15 ～三吉平 12:40 ～光岳小屋 14:30
テント設営 光岳往復 15:40 光岳小屋

8月12日 光岳小屋発 4:35 ～三吉平 5:35 ～易老岳 6:45 ～希望峰 8:30 ～茶臼岳 9:20 ～
茶臼小屋（昼食） 10:05 ～上河内岳 12:45 ～南岳 13:40 ～聖平小屋 14:55 着

8月13日 聖平小屋発 3:50 ～小聖岳 4:55 ～6:05 聖岳 7:00 ～小聖岳 7:50 ～薊畑分岐 8:35
～ 8:55 聖平小屋（テント撤収等） 9:40 ～薊畑分岐 10:05 ～苔平 11:15 ～
標高 1800m 地点 11:55 ～西沢渡 13:45 聖光小屋 14:40 ～易老渡 15:05 着
タクシー 梨元ていしゃば 16:05 着 ～ かずさの湯（夕食） 18:40 ～奈良 0時過ぎ

《報告》

今年のお盆山行は紆余曲折あり、南アルプスの最南端、光岳～上河内岳～聖岳を周回する縦走になりました。この山域は静岡側からと長野側からのアクセスがあり、静岡側から登る人が多いようですが、私達は長野県飯田市の易老渡登山口から入ることにしました。登山口までの道は2015年秋の道路崩壊により、一般車両、徒歩も禁止で、指定タクシーのみ通行可能となっているため、梨元ていしゃばからの指定の天龍観光タクシーを利用しました。梨元ていしゃばはきれいなトイレ完備の駐車場になっており登山口行きのバスが早朝4:30,6:00の2便、帰りは易老渡発12:00,14:00,16:00の3便でどちらも要予約となっています。また、道路崩壊地はう回路として河原を通るようになっているため、大雨注意報、警報が出ると県から即刻通行不可となるため、余裕をもった計画が必要となります。料金目安は片道約1万円です。

8月10日(水)

19:50に天理駅で全員合流し、針ICの天理スタミナラーメンで夕食後、名神で長野へ向かう。四日市辺りでT良が忘れ物に気づく。地味だが、ないと非常に困るもの、靴の中敷きを忘れるという大失態。先日登山靴を洗った時に外していたのを忘れてそのまま持って来てしまった。お店も閉まっている時間でコンビニで売っているわけもなく、一瞬暗雲が立ち込めたものの、車中でいろいろ対応策を考えた結果、I田大先輩が登山口まで履いていた運動靴の中敷きをお借りするという事になった。奇跡的にサイズもぴったりで、この時ばかりは女なのに大足でよかったと思いました。3日間履いて靴ずれもなく、快適に歩行でき、下山後そのまま返すという始末でもうI田さんに足を向けては寝れません。

飯田ICで降りてコンビニに寄り、下道を約1時間走って梨元ていしゃばに1時頃着。駐車場にテントを張り仮眠。

8月11日(木) 山の日

タクシーはまだ真っ暗な中4時には迎えに来ていました。準備をして乗り合いバンで4:30に出発して約1時間の道のり。途中の道路崩壊地では河原を通り、5:30易老渡着。ここで、光岳方面に登山する人達と聖岳方面に行く人達に分かれます。身支度をして5:55に橋を渡って光岳への登山スタート。樹林帯の急登から始まり、最初の1時間は体も慣れずに言葉も少なめ。40分歩いて5～10分休憩するペースで登りました。易老岳までは高度差1500mひたすら登りでしたが30番までの標識があり目安としてわかりやすかったです。樹林帯の中で景色も見えず噴き出る汗をぬぐいながら高度を稼ぎました。11:15に易老岳の分岐に到着。

易老岳からの尾根道はゆるやかなアップダウンが続きます。多雨な地域だけあって、植生が大峰の雰囲気と似たような感じでした。途中、シダや倒木地帯があり、ぬかるみの低地があり、開けたところでは中央アルプスや恵那山方面が綺麗に見えました。三吉平を越え、静高平までは最後の急登が現れます。ここが1日めで一番きつく息も上がりましたが、約1名、トリカブトが一面に咲く中、意気揚々と登っている人もいました。

登りきると静高平では水場があり、冷たくておいしい南アルプスの天然水で皆生き返りました。テント場用の水も確保して残りはあともう少し。草原の木道を通って光岳小屋に到着。テント場も確保。光岳小屋は、静岡県営の小屋でバイオトイレの綺麗な小屋でした。HPを見た時の印象は、小屋泊できる人の条件が決められていて注意書きもあり少しくせがあるのか、と思いましたが、小屋は綺麗で人も愛想もよくて親切でした。ただ、飲み物は炭酸もビールも冷えていない常温販売のみです。

テント設営後、身軽になって光岳頂上まで往復。頂上は展望もなく、百名山とは思えないほど地味でした。少し歩いたところに展望台があり、光石と富士山や静岡方面の山が見渡せました。Nさんは光岳だけにピカチュウがいないかとポケモンGOをやっていましたがいなかったそうです。

夕食は小屋前のベンチを使わせてもらい、お天気もよくて風もなく快適に夕食をとることができました。小屋の人によると、こんな天気にも恵まれることはあまりなく、小屋下の水場も少し前に雨が降ったので十分にありましたが、あと2、3日すれば枯れて別の水場を使わなければいけないだろうと言っていました。小屋から2日目、3日目に歩く上河内岳、聖岳方面に続く縦走路も綺麗に見えました。



易老渡から樹林帯の急登で1500m一気に上がる



光岳小屋前の草原の木道



光岳登頂



明日歩く茶臼岳、上河内岳、聖岳

8月12日(金)

3時頃起床。朝食をとりテント撤収後、まだ薄暗い中4:35出発。この日は10時間超のロングコースです。小屋下の水場で汲んでから、まずは昨日通った易老岳を目指します。この日も大峰みたいな景色だね、といいながら三吉平を歩いていると、Nさんのカメラの調子が悪く、汗で壊れてしまったようで大きなショックを受ける。易老岳から希望峰はゆるやかな尾根道で最後に登りがありました。仁田岳までの往復は先を急ぐため今回は省略。木道、仁田池を抜けて茶臼岳が見え始めたころから、植生が急にハイマツ、砂礫に変わり、アルプスの雰囲気が変わる。三百名山の茶臼岳登頂後、砂礫の道を下り、昼食と水補給のために茶臼小屋に立ち寄る。冷えた果物やジュースがうれしかったです。この時期に開催されていたTJAR(トランスジャパンアルプスレース)のキャンプ地にもなっていました。

尾根道に戻って、砂礫の道を過ぎると草原やお花畑が現れ、変化の富んだ道がとても楽しく、光小屋で一緒だった他パーティの人達と会い、談話しつつ抜かし抜かされ進んでいく。奇岩竹内門からはまた砂礫の道でTJARの選手ともすれ違い、道を譲って応援ながら上河内岳を目指す。上河内岳の肩に荷物を置いて身軽になり、二百名山の上河内岳まで往復。晴れていれば360度の眺望のはずでしたが残念ながらガスで真っ白でした。

上河内岳の肩から下っていくと南岳手前では今回一番のお花畑に和みながらトラバースを慎重に進む。そこからはひたすら下り。ガスも晴れて素晴らしい景色が見えましたが終盤で疲れが溜まってきていたので気を使いながら最後の力を振り絞って聖平小屋に到着しました。

聖平小屋で受付をするとウェルカムフルーツポンチの振る舞い。一日たっぷり歩いた後のフルーツポンチが美味しく、とても嬉しかったです。テン場は100張ととても広く、水も豊富で水洗トイレもあり、オアシスのようなところでした。ここもTJARのキャンプ地になっていて、スタッフの方や選手が立ち寄っていました。3番の選手は足も手もパンパンに腫れ上がっていてテーピングだらけでしたが、これから茶臼岳を越えて夜通し走れば明日には太平洋に着きそう、と私達からすれば想像もつかない壮絶なレース。健闘をたたえて、Nさんは思わず握手を求めると「2年後にぜひ挑戦してください!」と返されていました。その後夕食をとりながら翌日の行程の確認。翌日に備えて早めに就寝。



易老渡まではガスで大峰、大台のような雰囲気



茶臼岳からの下り。アルプスらしい景色



二百名山の上河内岳



南岳から聖平小屋を目指して一気に下る

8月13日（土）

2時頃雨の音で起床。雨音に一瞬不安になるが、小屋で天気予報を確認すると、夜明けには晴れるとのこと。朝食をとり準備をしている間に雨は上がり、テントは残したままアタックザックで小屋を3:50に出発。薊畑分岐からまずは小聖岳を目指す。それまではガスの中でしたが、小聖岳を過ぎたところから明るくなり、ガスも晴れてきて稜線超しの日の出と雲海の中に浮かび上がる富士山に感動。そこからはガレ場のジグザグの登りが続きましたが、雲海の神秘的な景色に酔いしれながら高度を稼ぎ6:05に前聖に登頂。前聖に到着すると雲海の中の絶景が広がっていました。北に赤石、悪沢。南は上河内岳、東に富士山。最終日に最高のお天気の中、最高の景色で小1時間、写真を撮ったり景色を楽しみました。三伏峠から夜通しトレランで走ってきたテンションの高い男性と撮影会をしたり、登山口から同じコースを辿ってきた男性達が聖岳で百名山達成の瞬間に立ち会えこの山行のクライマックスになりました。

7:00に下山開始し、聖平小屋でテント撤収。同じ易老渡に降りる人は時間短縮のために薊畑分岐に荷物をデポして聖岳を往復している人もいましたが、晴れてテントが乾いていたのとトイレ休憩もできたのでそれはそれでよかったです。聖平小屋を出る時、食堂のカレーライスの匂いに後ろ髪ひかれつつ9:40に小屋を出発。早朝通った時は真っ暗で気づきませんでした。薊畑まではお花畑で、薊畑を超えるとひたすら下り。途中苔むした倒木帯で休憩しつつ、西沢渡の川へ到着。川を渡るために十津川にある野猿のような人力のロープウェイが掛けてありました。荷重が150kgのため、リーダーからTさんは一人で乗って下さいと忠告をうけるが、女性2人で挑戦。男性の援助もあってアトラクション感覚で楽しみました。

そこからはスキップもできそうななだらかな道、と書いていましたが、途中大きな倒木が道をふさいでいたり、土砂が崩れているところが数か所あり、これまた思わぬアトラクション感覚で歩きました。便ヶ島の聖光小屋は休業中で綺麗なキャンプ場もありましたが、今は車両通行禁止のため人っ気がなく寂しい感じでした。平坦な道を歩き易老渡駐車場に15:05着。

16時に予約していたタクシーは迎えに来ていて、行きのタクシーと同じおじさんでした。とても優しい方で、山や地元の話をいろいろ聞かせていただき途中の日本のチロルと言われる下栗の里が見えるところで写真のために立ち止まってくれました。

梨元でいしゃばで車に乗換、かずさの湯で3日間の汗を流し、夕食をとってから帰路につきました。



聖岳登頂。北は奥に赤石、悪沢をのぞむ



南は昨日のぼった上河内岳のみ頭を出している



苔平。ここからの下りが長かった。



西沢渡の人力ロープウェイ